

# 東大を海外へ広めるために —英語略称をいま一度考える—



「学内広報」No.1424(2012.4.23発行)では、「東京大学の英文呼称」を特集しました。その特集記事の中で、英語の略称が統一されることなく様々な略称が混在している現状について説明しました。

それから1年経った今回の特集では、「東京大学の表象に関する懇談会」が一年をかけて議論し、まとめた英語略称の提案をご紹介しますとともに、改めて構成員の皆さんとグローバルに成長する東京大学にふさわしい英語略称について考えたいと思います。

特集記事をご覧になって、是非皆さんのご意見をお寄せください(詳細は最後)。

## 英語略称を広める

東京大学の英語の正式名称は The University of Tokyo ですが、英語略称はご存知でしょうか？ 本学では、平成19年8月30日の役員懇談会で、「Todai」を英語略称とすることが決定されています。しかし、その決定事項が必ずしも全学的に共有されず、「Todai」の使用も徹底されることなく現在に至っています。実際に、コミュニケーションセンターではUTマークの商品が販売され、東京大学学術機関リポジトリはUT Repository と名付けられています。

今日、東京大学が、日本の最高学府から世界のリーディングユニバーシティへと展開するために、さまざまな全学的な施策が進められつつあります。これと並行して、将来に対するビジョンや方向性を海外に広めるための発信力の強化も必要です。そのなかで、英語略称はとりわけ重要なはずですが、Todai や UT をはじめ複数の略称が使われ続け、海外からは同じ大学とは認識されずに、混乱を招いているのが現状です。「東京大学」の確固たるイメージを海外へ打ち出していくためにも、略称も統一してPRしていくことが求められます。また、その略称は、東京大学のことをよく知っている研究者はともかく、ほとんど知らない海外の学生でも東京大学であることを認識でき、かつ親しみやすいものであることが望ましいでしょう。

これらの背景を踏まえて、平成24年3月に「東京大学の表象に関する懇談会(座長 山下友信 法学政治学研究科教授)」が設置され、英語略称、大学ロゴマーク、印刷物などの表

象にかかわる課題が改めて議論されてきました。その結果、複数の候補の中から、英語略称に最もふさわしいものとして、「UTokyo」(ただし、大文字、小文字、ハイフンの有無などについては、将来ロゴに展開する場合にデザインの観点から決める)が提案されています。世界的にも広く認知されている日本の首都Tokyoを略称に含めること、英語の正式名称に近いこと、はじめのUの字が大学を示す例も数多くあり自然に受け入れられるのがプラス面であると懇談会からは提案されています。一方、「UT」は、すでに海外の多くの大学で略称として使われていることから、UTから東京大学のみを想起させるのは困難である、また「Todai」は国内では広く認知されているものの、外国人にとっては理解が困難であると指摘されています。

昨年末に懇談会がUTokyoを提案し、その内容が科所長会議で報告されました。その後1月から2月にかけて各部局で話し合われた結果を2月末までに広報課が集約したところ、賛成意見が多数という状況です。略称は大学の「顔」にあたるものなので、十分慎重に審議されるべきでしょう。しかし、一番大事なのは英語略称を決めることよりも、決まった一つの英語略称が全学的に共有され、徹底して使用されることです。本学の最大の発信力は、教職員一人一人にあります。皆が心を合わせて統一した英語略称を用いることにより、東大の海外での存在感を高めていくことができるのです。

東京大学の表象に関する  
懇談会ワーキンググループ  
主査  
大学院総合文化研究科教授

**真船文隆**

### これまでの経緯

以下のような流れで英文略称に関する議論を進めてまいりました。

平成23年度  
有識者懇談会にて表象問題を議論  
平成24年3月  
表象に関する懇談会及びWGの設置  
平成24年11月  
英語略称に関する報告書を役員懇談会へ提出  
平成24年12月  
科所長会議へ報告書を提出、意見照会

## 表象に関する懇談会の新英語略称の提案

# UTokyo

※大文字/小文字、ハイフンやスペースの挿入等を含む正式な表記については、今後の議論、デザイン化の作業の過程で決定する。

提案の理由:

- ・最大の利点は、世界的にも広く認知されている日本の首都「Tokyo」を略称に含めることにより、これまで本学を知らない外国人にも「東京にある大学」とまず理解してもらえる効果が期待できる。
- ・英文名称「The University of Tokyo」からの直接的な略称であるため、混乱がない。
- ・U—という略称については、UMass（マサチューセッツ大学）、UPenn（ペンシルバニア大学）、UVic（ビクトリア大学）等の例がある。

## その他の候補のメリット・デメリット

### Today

国内では浸透しており、海外でも東大にゆかりのある人には通用し、日本の大学らしいユニークさはあるが、英文名称（The University of Tokyo）を類推できず、Todayが何を意味するのか外国人には理解できない。また発音もしづらい。さらにグローバルに展開する「TODAI」という名称のレストランチェーンが存在するため、これ以上当該英語略称を推し進めることはふさわしくない。

### U of Tokyo / Univ of Tokyo 等

The University of Tokyoからの直接的な略称であり、ネイティブの語感にじっくりくるものであるが、略称としては長く、使いづらい。

### UT

一般的な大学の略称であり、The University of Tokyoからの直接的な略称である。しかしながら略称をUTとする大学が多数ある（University of Toronto、The University of Texas等）ため、独自性が出せないのが最大のデメリット。今後新たに本学を海外にPRするには弱い。

### Tokyo

街名を略称とする大学は多数あり、首都名をつけた大学としての存在感があるが、単独で使用する場合には単なる街名と混合する恐れがあり、大学を表すことが分かりづらい。

## 英語略称の統一に向けて—学内での問題共有・議論から周知・徹底へ—

平成19年度の役員懇談会で本学の英語略称は「Today」と決定されたにもかかわらず、それが浸透せず現状に至ったのは、決定とともに周知徹底しなかったことに原因がありました。

同じ轍を踏まないために、この問題を構成員の皆さんに共有してもらい、一緒に考えていきたいと思っています。そして、1つの英語略称が定まったら、積極的に発信するとともに、学内にしっかりと周知して、部局、構成員一人一人に徹底して使用してもらってはたらかかけをしていきます。

### 構成員の皆さんの意見をお待ちしています!

東京大学の英語略称について、  
本部広報課（pr@ml.adm.u-tokyo.ac.jp）  
までご意見を是非お寄せください。

制作：本部広報課

#### お寄せ頂きたいご意見

- ・懇談会案の英語略称「UTokyo」について
- ・今後の英語略称の展開のしかたについて
- ・その他、英語略称に関する事、大学の表象に関する事

